

オンライン韓国語入門サイトの構築につ
いて

松本 妙子

目 次	
1 はじめに	1
2 サイトを制作した動機	2
1 韓国について	2
2 私自身の韓国語研修について	3
3 サイトを制作した動機	4
3 制作物のテーマと計画	5
1 制作物の目的	5
2 誰のために作るのか	6
3 どのような役に立つのか	7
4 その他の韓国語教材サイトの存在	7
4 制作物について	9
1 制作物の具体的な説明	9
2 その他の韓国語サイトとは違う点	14
3 制作物の問題点と工夫	15
4 アンケートによる他者の評価	16
5 アンケート結果について	17
6 今後の課題	18
5 終わりに	19

1 はじめに

現在、日本人で韓国語を話せる人はどのくらいいるのだろうか。

日本では、2000年に入ってから韓国の人気が急上昇した。「韓流」という言葉が登場したのもその頃である。中高年の女性を中心として韓国語を学ぶ人が増え、マスメディアでも「韓国語講座」として韓国語学習を目的とした番組などが放送されるようになった。日本は韓国の文化を取り入れ親交が深くなったのかもしれない。しかし、日本と韓国との間には朝鮮時代からの暗い歴史があり、そのため「近くて遠い国」と呼ばれるという負の面も未だ存在している。

第二次世界大戦中の強制連行・強制労働、慰安婦問題、歴史教科書問題、靖国問題、竹島問題等、日本と韓国との間には数々の問題が今も未清算のまま放置されているのである。

私は、韓国は「近くて遠い国」という言葉がとても悲しい響きとして聞こえる。それは私が大学に入って韓国語を学び、実際に韓国へも訪れ、人や文化に触れたことから韓国という国が大好きになったからである。そして、韓国が好きな私だからこそ日本と韓国が真に友好関係を築いてほしいと願い、また、この悲しい言葉が今の日本と韓国の間にある課題として受け入れようと思っている。課題はいつか解決しなければならない事であるからだ。

そのような思いを根底に持ち、私は「人の役に立つものを作る」というテーマを掲げる福田ゼミに入った。そして初心者から始めることの出来る韓国語の教材サイトを制作した。それが「オンライン韓国語入門サイト」である。

STEP 0から19までのテキストを用意し、文字の基礎から簡単な文法までを説明している。そして各STEPの終わりには問題を用意し、

テキストを学習したあとすぐに復習のための問題に挑戦できるようにした。利用者には答を入力してもらい、答え合わせのボタンをクリックすると正解・不正解が表示される。利用者にはテキストを読んで覚えるだけではなく、実際に問題を解いてもらう形で知識を身につけてほしいと思った。

また、韓国語を全く話せない初心者の人のために制作したサイトではあるが、これまでも韓国語を学習してきたという人にも復習用として利用できるサイトでもある。

私がなぜ韓国の語学サイトを制作し、それがどのような役割を果たしてほしいかということと、制作物についての説明をこれから述べていく。

2 サイトを制作した動機

(1) 韓国について

私は、大学1年生のときに初めて韓国語を習い、そこから本格的にもっと学習したいと思うようになった。そして韓国または朝鮮に関連する講義をいくつも受け、朝鮮王朝から始まる韓国という国の歴史についても勉強してきたのである。また、そのうえで実際に韓国へも訪れ、鉄格子に囲われた軍事境界線の向こう側にある北朝鮮の地も見てきた。現在は「韓国」と「北朝鮮」というように二つの国に分離しているが、なぜそのようなってしまったのか、なぜ日本と韓国の間にはいまだに様々な問題が壁を作っているのかなどを学んできた。(資料編 付論1 参照)

(2) 私自身の韓国語研修について

2008年、私が大学3回生の夏に、韓国東西大学校短期韓国語研修⁽¹⁾に参加した。

参加したきっかけは、大学1回生から韓国・朝鮮語を学習していたということと、そのことがきっかけで仲良くさせてもらっている友達から誘いを受けたからである。

韓国プサンに着いてはじめての3週間は、韓国東西大学校の語学堂⁽²⁾を利用して韓国人の先生から語学を学んだ。書いて覚えるだけではなく、なるべく耳と口を使って体で覚える学習をした。午前中はそうして教室で勉強したあと、午後からはプサンの街に出てその日に勉強した語学を実際に韓国人相手に使ってみる実践形式の学習を行った。

片言ではあったが、韓国語を使って話しかけて相手に伝わった時はとても嬉しかったし達成感や自信を持つことができた。やはり、語学において実際に話してみることは大切なのだと感じた。伝わった時の達成感や自信がさらなる向上心を起こさせるからだ。

また、先生が東西大学校に通う韓国人大学生たちと会う機会を用意してくださった。彼らとの会話はもちろん韓国語である。一日中交流させてもらったのだが、その一日を通して自分の語彙力の無さを痛感した。電子辞書が無ければ会話は難しいし、また電子辞書を使うことによって会話が中断してしまうことが相手に申し訳なかった。

土曜日と日曜日の休みを利用して、プサンへ来て知り合った韓国人の学生・スジと一緒に韓国の若者が普段していることを体験させてもらうことになった。ショッピングをして、美味しいデザートを食べ、プリクラを撮って、カラオケに行った。日本の若者が普段していることと何も変わらないと思ったが、そのことも大変勉強になった。プリクラやカラ

オケは日本文化が韓国に入ってきたものである。私は実際に日本の文化が韓国の若者たちに受け入れられているということを実感できて嬉しくなった。

語学堂の先生をはじめ様々な方と仲良くさせていただいた3週間は、「日本人」「韓国人」ということを忘れてしまいそうになった。現地で知り合った方々は本当に親切だったのである。私は以前にも増して韓国が好きになった。

(3) サイトを制作した動機

私は実際に韓国へ訪れ韓国の方々と交流をしてきた。しかし韓国の方と親しくすればするほど、お互いの国の関係について考えさせられるのである。

私はもっと対等に韓国の文化にも触れたい、また韓国の方とも親しくなりたい。どうすれば、お互いの国が真の友好関係を築いていくことができるのだろうかと考えた。その結果、私の周囲の人たちをみてもまだ日韓の歴史について無知な日本人は多いと感じられる。そのような人たちに知ってもらうことが大切だと考えたのである。そして、知ってもらうにはまず韓国に関心を持ってもらうことが第一歩なのではないだろうか。そう考えた私は、そのきっかけとなるものを制作しようと福田ゼミに入ったのを良い機会であるとして「オンライン韓国語入門サイト」を制作したのである。

3 制作物のテーマと計画

(1) 制作物の目的

私が制作した「オンライン韓国語入門サイト」は、韓国語について初心者の人向けに制作したサイトである。韓国語を勉強したいという人に利用してもらうことが目的なのだが、もう1つ、このサイトを制作したさらなる目的がある。

「はじめに」で述べたように、日本と韓国は「近くて遠い国」と呼ばれている。韓国とは土地的な距離でいえばどの国よりも一番近い国のはずなのだが、日本人と韓国人のお互いに対する心の距離がものすごく遠いと言われているのだ。なぜかというのは、2章ですっと述べてきたように日本の朝鮮侵略の歴史に理由があった。

日本人の中にはそんな日韓の関係にあまり関心の無い方も多いかもしれない。私も数年前までは一番近い国である韓国との間に、これ程のひどい歴史があったということをよく知らなかった。大学に入って韓国・朝鮮語の授業を履修するまでは、韓国についての知識はほとんど無いに等しかったのである。

そして、そのような歴史を学んで日の浅い私ではあるが、日本と韓国・朝鮮が抱える諸問題が根本的に解決され、お互いが真に友好関係を築いてほしいと願うようになった。侵略行為をしたことに対して正式にきちんと謝罪し、何のわだかまりもない状態で交流を深めることが出来れば、お互いの国にとっても、そしてこれから協力し合っていこうとするアジア全体にとっても素晴らしいことだと思うのだ。

私が制作したサイトは、韓国という国の語学を学ぶものである。自分の国以外の言語を学ぶということは、その国の人々と親交を深める手段の中の1つを身につけることが出来るということだ。少しでも相手の国

の言葉を学び、言いたいことを言い合うことが、“ひとり”という人間単位ではあるけれども、お互いの国同士が親交を深め友好関係を築いていくためには大切なステップだと思うのである。

今でも、韓国・朝鮮との間にあった侵略の歴史を知らない人は多いのではないだろうか。その歴史から年々時を経て生れてくる若い世代には特に多いだろう。私は、そんな若い世代の人々には特にこのサイトを利用してもらいたい。このオンライン韓国語入門サイトで韓国語を学習し、そのことがきっかけで韓国という国についても学んでいってもらえればという期待をしているのである。

(2) 誰のために作るのか

これは韓国の事を好きな人はもちろん、少しでも興味を持っている人で、韓国語について全くの初心者の人対象の教材として考えている。

2000年以降、日本には韓国の文化が大量に入ってきた。中でも、特にドラマや映画・音楽などはその目でも感じる事が出来るだろう。

例えばCDショップでは、以前は「アジアの音楽」という枠組みの中で韓国のCDは売られていたと思うが、現在では「韓流コーナー」などといった特設コーナーを設けている店が多い。また、韓国ドラマ「冬のソナタ」が一気にブレイクしたことにより、韓国ドラマ特有の純愛ものの魅力に取りつかれたファンも多く、レンタルビデオショップでは、韓国ドラマコーナーに純愛ドラマをはじめ様々なジャンルのビデオが何十種類も並んでいる様子を見ることが出来る。

このように韓国ブームは社会現象とも言えるなか、韓国の文化に触れたことによって実際に韓国に旅行したいと考えたり、ドラマや映画なら吹き替え無しでも見る事が出来るようになりたいと思ったりする人が

必然的に出てくる。そのように考える人ならば、まず少しでも韓国の語学を身につけたいと思うだろう。なぜなら私もその一人だからだ。そういう人々のために「オンライン韓国語入門サイト」を制作した。

(3) どのような役に立つのか

韓国語を一から勉強したいという人に役立つサイトである。「オンライン韓国語入門サイト」とあるように、私の作ったこのサイトから韓国語学習をスタートしても十分理解できるようにと思い常に初心者の目線で制作したため、今まで韓国語には全く興味なかった初心者という人に利用してもらっても理解しやすい教材サイトとなっている。

また、今まで韓国語を勉強したことがあるという人には、復習用としても利用してもらえる便利なサイトである。利用者に解答を入力してもらう問題を用意しているため、今自分はどのくらい理解しているのか実力を試すことができる。

さらに、サイト中に出てくるテキストは日本人と韓国人が会話しているという設定の文章である。初対面のシーンから始まり、「こんにちは」や「これは何と言いますか?」「トイレはどこにありますか?」「〇〇をください。」など、日常的に使えるフレーズを選んでテキスト使用しているため、韓国へ実際に行った際にも実践的に使えるだろう。このサイトで事前に学習してもらえば現地で話すことのできるフレーズはたくさん用意してある。

(4) その他の韓国語教材サイトの存在

オンライン上には、韓国語の教材サイトはいくつも存在する。いくつか例をあげてみる。

- ・「オンライン韓国語講座 (<http://www.e-kankokugo.com/>)」
- ・「自宅で学ぶ・オンライン韓国語会話 (<http://kankoku.main.jp/gnuboard4.utf8/>)」
- ・「K-PLAZA.COM 韓国のことなら何でもおまかせ！
(<http://www.k-plaza.com/main/korean.html>)」

しかし、これらのようなオンライン上で学ぶことが出来るサイトは会員登録などが必要な有料サイトであったり、ブログ形式のものであったり、リンクがたくさん貼ってありどこから始めればいいのかよくわからなかったりするものばかりだった。

そのため、オンラインで韓国語を学ぶことができる人が限定されてしまい、韓国語を気軽にきちんと学びたいという人には適したサイトがなかった。また、語学を勉強する際、読んで知り、書いて覚えるということが大切だと思う私には、読むサイトはあるが書く（入力する）サイトが無かったことに不満を感じた。

さらに、私自身が韓国語の学習中にそれらのサイトを利用して見て、率直に理解しにくいと感じたことが、新たに誰もが理解しやすい韓国語サイトを制作したいと思った理由でもある。

そこで私は、会員登録は不要かつ無料で誰でも利用できる。また、問題を作り利用者に答えてもらうという実践形式のものを制作することに決めた。スタイルもシンプルにし、基本的なパソコン操作を知っている人であれば誰でも簡単に操作できるようになっている。

4 制作物について

(1) 制作物の具体的な説明

まず、最初に、教材サイトを制作するにあたって「利用者にとって理解しやすいサイト」というものを目指すことにした。

誰が利用しても理解しやすいサイトに制作するには、学習してもらう入門編内容の範囲を細かく分けて、1つずつ丁寧に説明する必要がある。

そこで私が参考にしたのが大学1回生の時の韓国・朝鮮語の授業で使用していた教科書（高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語』白水社、2002）である。それには、当時授業中に書きこんだメモや重要だと思ってチェックしておいた跡、さらに当時の先生が仰っていた分かりやすい説明も一緒にメモとして残っていたため、これらをサイトに活かすことが出来れば、より利用者にも理解しやすいサイトになるだろうと思った。

サイトの構成は、STEP 0から19までの計20項目を用意し、各STEPにはテキストのページと問題のページを用意した。（資料編図1・図2参照）

しかし、STEP 0だけは本題に入る前の予備知識として韓国語の「文字の構成」を説明しているため、問題のページは作成していない。実は、このSTEP 0は最初から用意していた項目ではなかった。他者の意見を聞くために福田ゼミの3回生に実際にサイトを利用してもらった際、「文字の入力の仕方が分からない」という指摘を受けたのが、このSTEP 0「文字の構成」の説明を作るきっかけだった。（資料編図3参照）

初心者の立場で制作していたつもりだったが、前から韓国語を読

むことができる私にとって、文字の仕組みについては基本の基本であったため見逃していた。そんな私にとってその指摘は大変参考になった。韓国語の文字は「母音」と「子音」が組み合わさって1文字を構成しているのだが、全くの初心者にはどの部分が母音で、どの部分が子音なのか分からないのが当然である。

その後、きちんと文字の成り立ちの詳細な説明を作成し STEP 0として付け加えたのである。また説明が少し複雑になってしまったため、色やフォントを変えて、目でも理解できるように分かりやすい工夫をした。さらに、韓国語の文字であるハングルによるパソコン入力の仕方も同 STEP に説明を加え、今後出題される問題に対して初心者の利用者が韓国語の入力の仕方が分からないということがないように対策がうてたことにもなったのである。(資料編図4参照)

STEP 1から6の項目は次のようになっている。

- ・STEP 1 「母音」
- ・STEP 2 「子音」
- ・STEP 3 「濃音」
- ・STEP 4 「複合母音」
- ・STEP 5 「終声」
- ・STEP 6 「連音化、濃音化、鼻音化、流音化」

これらは利用者がハングルを読めるようになってもらうための項目である。

ハングルの文字は日本語と違い、母音または子音となる部分が組み合わさって1文字を形成しているのだが、母音には10個の基本母音と11個の複合母音があり、子音には14個の基本子音と5個の濃音という子音が存在する。それらは全て発音が異なるため一つ一つ覚える必要が

あるのだ。そのため、項目を4つに分け説明した。

またSTEP 5では、ハングルではとても重要な終声（パッチム）の説明をし、STEP 6では、単語や文章など1文字以上の文字を発音する場合、より滑らかな発音にするために起きる様々な変化を説明している。

このように、ややこしいハングルの文字の基礎を6つの項目に分けて説明した。ここで利用者に文字の基礎をきちんと学習してもらわなければ、STEP 7以降から出てくる韓国語の会話文を読むことが出来ない。そのためハングルの文字が読めるまで完璧に学習してもらえよう、説明文の内容や体裁も工夫しながら制作した。

STEP 7から19までの項目は次のようになっている。

- ・STEP 7 「○は□です。」
- ・STEP 8 「○は□ではありません。」
- ・STEP 9 「数詞（韓数詞）」
- ・STEP 10 「何といたしますか？（疑問）」
- ・STEP 11 「時間の言い方」
- ・STEP 12 「上称形（「です」「ます）」
- ・STEP 13 「助詞」
- ・STEP 14 「意志・確信・控えめな気持ち」
- ・STEP 15 「尊敬1」
- ・STEP 16 「用言否定」
- ・STEP 17 「打ち解けた上称形」
- ・STEP 18 「尊敬2」
- ・STEP 19 「過去形」

これらは、利用者がハングルで日常会話を話す事が出来るようになってもらうと同時に、ハングルの文法を学習してもらう項目である。

STEP 7から19のテキストのページは2ページ用意している。1ページ目では会話文(本文)・説明・会話文の出てきた単語・訳文を使って会話の練習をしてもらい、2ページ目では「ポイント」として前ページの会話文中で使われていた重要な文法の説明をしている。(資料編図5・図6参照) テキストには私が1回生のときに実際に覚えるコツとして実践していた独自の練習方法や学習方法の内容を紹介し、より利用者が韓国語を覚えやすいサイトへの工夫をした。

言語の異なる人と会話をする上で最も重要な「挨拶」をSTEP 7の会話文に入れた。「こんにちは」と挨拶した後、「私は何々です。」と自己紹介の場面を使って、「○は□です。」という文法の説明を2ページ目でしている。さらに、次のSTEPでは続けて自己紹介の場面を使用し、「私は何々ではありません。」というように否定の仕方を説明する。このようにSTEP 7から19を通して会話のレパートリーを段々と増やしていった。

主に、各STEPで登場する文法は1つずつである。それも、その1つを確実に覚えてもらえるようにと考えた工夫である。そして各STEPの終わりにその文法を含む問題を解答してもらえばより確実に知識が身につくということである。

また、語学において語彙力はとても重要な要素である。そのためより多くの単語を紹介しようと思い「語彙を増やそう」というコーナーを作り、テーマごとにいくつかの単語を紹介した。利用者が韓国語を習得して実際に使用されることを見通し、日常会話で頻繁に使用されるであろう単語を私が選択し紹介している。さらにそこで紹介した単語を問題にも登場させ覚えてもらえるよう工夫した。

STEPを進んでいくと、過去に学習した内容を見直したいと思う人

がいるだろう。そういう人のために、STEP のテキストページの右上に過去に学習した STEP へジャンプできるセレクトボックスを用意した。このリンクがあれば、過去のページを見直したいときにわざわざトップページに戻る必要なく、すぐに目的のページへジャンプすることが出来る。(資料編図7 参照)

問題は1 ページに1 問ずつ出題し、利用者が答えを入力して「答え合わせ」をクリックすると正解・不正解のページを表示するようにプログラムした。入力された解答が正解ならば正解の答を表示させ解答者に確認してもらった後、次の問題へ進むことが出来、もしも不正解であった場合はもう一度同じ問題へ戻って解答し直してもらおうようにした。(資料編図2・図8・図9 参照) なぜなら、不正解の場合正解の答を見て納得して次の問題へ進むよりも、考え直して正しい答を入力し直した方が、確実に理解してもらえらるだろうと判断したからである。STEP 1 から STEP 19 までの問題の解答に対する動作は `output.php` ファイル1 つで対応できるようにプログラムした。(資料編図10 参照)

また、出題している問題は、日本語で解答してもらうものとハングルで解答してもらうものがある。日本語で解答してもらうものは普段通り日本語入力してもらえばいいが、ハングルで解答してもらう問題については、パソコンの言語環境を韓国語に設定してもらう必要がある。Mac の場合は 2 - Set Korean に設定すればハングルを入力できるようになる。

キーボードのハングル対応表はトップページで紹介しているが、利用者の必要に応じて別ウィンドウで対応表を開いてそれを見ながら解答を入力してもらうことも可能にした。(資料編図11 参照)

利用者に解答してもらう問題の中身については、STEP 1 から6 ま

での問題は各 STEP で紹介した文字または、それまでに紹介した文字を組み合わせて作ることが出来る単語をテキストのページで紹介したあと出題している。それは、利用者が「こんな単語習っていない。」というようなことはがないように、また、テキストのページで紹介した単語を利用者がちゃんと覚えているのか確認するための復習をかねた問題である。

STEP 7から19までの項目で出題したものは、ほとんど簡単な文章で解答してもらうものである。内容は主にテキストの2ページ目で説明した文法から出題している。また、ハングルでは単語の最後の1文字が子音で終わるものと、母音で終わるものと2パターンあるのだが、それぞれのパターンによって次に来る助詞が異なってくる。そのため、単語の最後の1文字が子音でくるパターンと母音でくるパターンと両方解答してもらえるように、その前の単語は敢えて子音で終わるもの・母音で終わるもの両方を選んで出題した。当然、その単語は同STEPで紹介したことのある単語である。

そしてSTEP 19まで学習し終わると、韓国語の入門編全て学習したことになり、おそらく簡単な韓国語であれば読めて話することができるようにまでなっているはずである。利用者には是非このサイトで学習した韓国語を実際に使ってみてほしい。語学は、それを実際に使ってみてはじめて習得したのだと言えるのである。

(2) その他の韓国語サイトとは違う点

これまでに存在していた韓国語の教材サイトと明らかに異なる点は、誰でも無料で韓国語の入門編を学習することが出来るという点と、また、利用者には問題の解答を実際に韓国語の文字であるハングルで入力

してもらい、その正解・不正解の結果がすぐに表示されるというところである。

そのことによるメリットは、有料サイトのようにお金をかける必要が無く韓国語を学習することができるため、誰でも気軽に韓国語を習得できるといえるところである。

そして、利用者がサイトを見て学習するだけのような参考書的サイトではなく、テキストで学習した内容を同サイトに用意してある問題に挑戦することで、復習も即時にすることができるというところである。そのことで、利用者はより確実に韓国語を身につける事が出来るのである。

(3) 制作物の問題点と工夫

利用者に解答してもらおう問題は、日本語を韓国語に直してもらおうものと、韓国語を日本語に直してもらおうものと主に2パターンある。

日本語を韓国語に直してもらおうパターンについては特に問題はないのだが、逆に韓国語を日本語に直してもらおうパターンについて問題点が出てきた。

日本語には平仮名、漢字、もしくはカタカナという文字の種類があるのが特徴である。解答者によっては、例えば「こども」という答をとって見てみると、平仮名で「こども」と答える人もいれば漢字で「子供」と答える人もいるのである。この問題点について、正解のデータをプログラムしているsqlのファイルに、利用者が解答しうる正解のパターン全てをプログラムすることで解決できた。STEP 13の問題第2問の答は「鳥より猫が好きです。」となるのだが、この場合は「鳥よりネコが好きだ。」「とりよりねこが好きだ」など利用者によって解答しうる6

パターンの正解データを用意した。(資料編図12参照)

このプログラムによって、利用者が正しい解答を常識の範囲内でどのような言葉で表現し入力してもプログラムが正しい解答だと認識して「正解です」という結果が表示されるようになった。

(4) アンケートによる他者の評価

アンケート内容は以下の4点である。

- ・ 体裁 (見た目)
- ・ 説明文は理解しやすかったか
- ・ 不便だと思う点
- ・ その他、意見など

制作物の体裁 (見た目) は、自分で見やすい色・フォントを様々試して最良と思ったものを採用している。そして3回生にはその状態のものを利用してもらったためか、「とても見やすかった」「色合いも良い」等の意見を頂けた。また、説明文が多いため「文章が読みにくい」という意見も多数あった。

説明文の内容そのものに関しては「分かりやすかった」という意見を頂いている。

不便だと思う点については、「説明文が長すぎて読みにくい」「問題にヒントなどがほしかった」「正解の答を入力しているのに不正解という表示が何回かあった」という意見を頂いた。

その他の意見では、「韓国語をパソコンで打つのは初めてで楽しかったが、覚えることがいっぱいで大変だった。」「問題の一覧などがあればよかった。」「発音記号が新しく出てくる単語にも表示されていたら良かった。」という意見をいただいた。

(5) アンケート結果について

(i) 説明文は理解しやすかったか

「説明の文章が長すぎて読みにくい」という回答についてだが、利用者に理解してもらうためには分かりやすく詳しい説明をすることは外せないため、説明文を短くするという方法はとれない。そこで、内容は変えないで見せ方を改善することにした。文章の中で「ここは重要だ」と思う部分にはフォントカラーで色を変えたり大きさを変えたりして強調して見せた。また、文法を説明するところでは箇条書きにし、合間に改行を入れることで視覚的に大分見やすくなった。

(ii) 不便だと思う点

「ヒントなどがほしかった」という回答についてだが、まず問題にヒントをつけなかったのはその問題自体がすごく単純な問題だと思っていたことと、また出題文の中で使用する単語などはテキストに必ず一回は登場させたことのある単語ばかりである。そのためテキストのページを理解したすぐ後に解答してもらうには、ヒントが無くても十分であると判断していた。しかし、今回そのような意見を頂いたことで、利用者にとって分かりにくそうな問題についてはヒントをつけ足した。(資料編 図13参照)

また、「正解の答を入力しているのに不正解という表示が何回かあった」という回答に対しては、アンケート結果を見てすぐにs q lのファイルプログラムをチェックして修正した。

(iii) その他の意見

「問題の一覧があれば良い」という意見については、是非取り入れる必要があると思った。なぜなら、自分の現時点での語学力がどれ程のものなのかを知っておくということは大事なことである。現時点での自分

のレベルを自覚すれば、さらなる知識を身につけるには次にどういった内容を学習すればいいのかが分かるからである。そして、自分のレベルがどれ程のものなのかを確認する手段は、どこまでの STEP の問題なら正確に解答できるかを試すことだ。そのような、利用者のステップアップを支援するためにも問題の一覧を作成し、テキストのページを飛ばして直接問題のページに飛べるようリンクを貼る必要がある。そこでトップページにある目次の横に直接問題へ移動できるリンクを追加した。(資料編図14参照)

そして、「単語の発音記号の表示がほしい」という意見についてだが、STEP 1 から STEP 6 までの文字の基礎には発音記号を追加した。語学は初めにきちんとした発音を身につける必要があるからである。また、STEP 7 以降については新しく出てくる単語の数が多すぎるため、今後の課題として残しておくことにした。同時に、テキストのページにある会話文にも利用者がきちんとした発音で覚えることができるように発音記号を表示させ改善していきたい。

(6) 今後の課題

今後の課題として2つある。

1つ目は、現時点で問題のページにある問題数は5縲怩 P 0 問である。そして出題される順番も決まっていってランダムなどの変化はない。初めて利用してもらうにはその問題で十分だが、さらに復習用として繰り返し利用してもらう場合は、そのままの形式だと次の答えを予測できてしまいその人の役に立たない教材サイトになってしまう恐れがある。そのため、今後はさらに問題数も増やし、また出題される問題の順番もランダム方式にする。そうすることで答えの予測を防ぐことが出来、縲

り返し復習用としてサイトを利用してもらえるだろう。

そして2つ目は、このオンライン韓国語入門サイトの学習形式は、テキストと問題が各STEPにあつて、毎回STEPを学習した後に問題を解いて復習をするというものである。しかし、現時点で用意しているテキストと問題だけでは身につく力に限界がある。利用者に韓国語の知識の幅を広げていってもらうために、このサイト上で出来る工夫は問題数を増やすことである。

テキストの本文の内容にこだわらず、様々なシチュエーションを想定した問題文を作成する。入門編で紹介した文法の範囲内という制限はあるが、例えば韓国人と日常的な会話をするという設定で、「昨日何をしましたか?」「映画を見ました。」「その映画はどうでしたか?」「とても感動しました。」等の会話文を日本語または韓国語で出題し、韓国語または日本語に書き直せという風にする。それらの問題は新たに問題集として独立したページを用意することで、多くの問題に挑戦して力を身につけたいという人のために利用してなる。これで、身につく知識の幅も広がるだろう。

5 終わりに

私は大学1回生の時に韓国・朝鮮語を履修し、以来4年間を通して韓国・朝鮮という国について学習してきた。日本と韓国の歴史を学んだ上で、今自分に出来ることは何かと考えた時、もっと韓国を日本のみんなに広めたいと思ったのである。

そんななか、福田ゼミに入り人の役に立つサイトを制作することになって、迷わず「韓国語の教材サイト」を思いついた。語学の教材サイトを制作して、1人でも多くの韓国語話者を増やすことができれば、日

——オンライン韓国語入門サイトの構築について——

本と韓国の真の友好関係に一步近づけるだろうと考えたのである。

また、近年の韓流ブームによって韓国語学習を希望する人は確実に増加しているなか、その人たちの役にも立てるのだから一石二鳥である。

韓国とは今現在「近くて遠い」関係ではあるが、近い将来お互いの心の距離も「近い国だな」と言われる関係が築けるように何らかの役に立っていきたい。「オンライン韓国語入門サイト」を制作したことでその第一歩は踏み出せている。今後は、常に変化する日韓の関係に注目し、さらに学習を続けていこうと思う。そして、それによって身につけた知識を他の人にも広めて、今までは関心の無かったという人にも関心を持ってもらえる努力をする。これらは草の根のような行動であるが、少なからずの変化をもたらすことが出来るはずである。

注

- (1) 大谷大学の国際交流科目の1つ。韓国プサンにある東西大学校で語学研修をしたあと、ソウルにバス移動しながら世界遺産や歴史的建造物・資料館などの見学研修を1ヶ月間という短期で実施するというもの
- (2) 主に留学生たちが学習するための施設

文献表

林香里

2005 『「冬ソナ」にハマった私たち』文春新書

神戸女学院大学石川康宏ゼミナール

2006 『「慰安婦」と出会った女子大生たち』新日本出版社

岩本正光

2008 『日本国民にとっての朝鮮問題』学習の友社

不破哲三

2001 『ここに『歴史教科書』問題の核心がある』新日本出版社

高島淑郎

2002 『書いて覚える初級朝鮮語』白水社

金貞姫

2006 『絵で覚える韓国語単語』成美堂出版